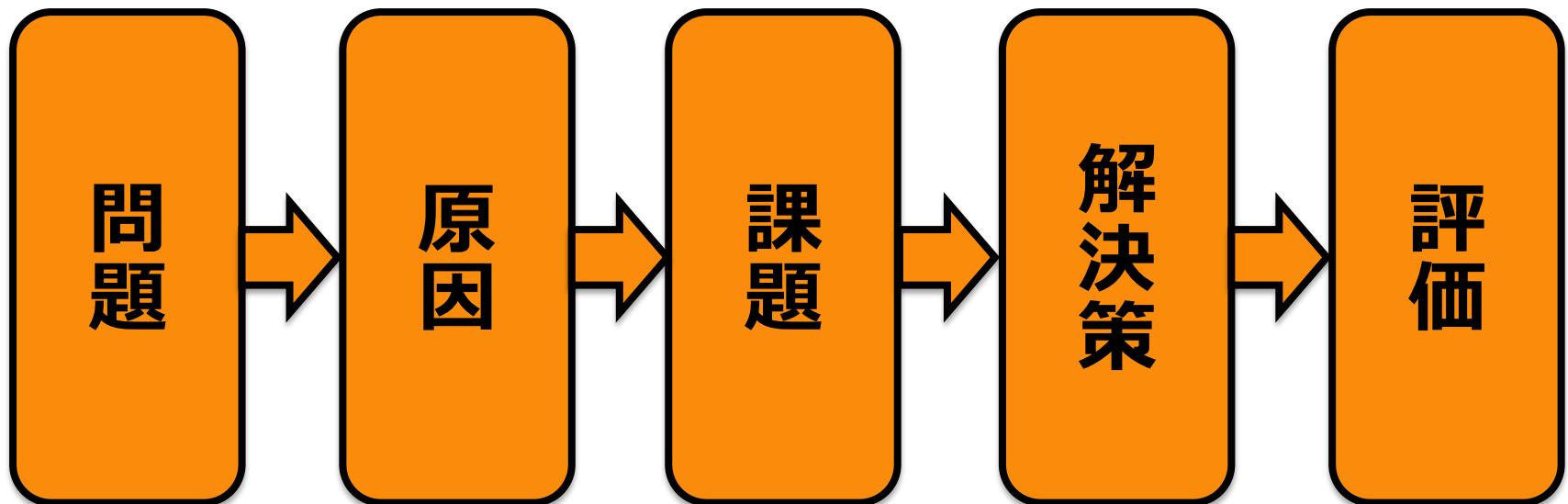


CRS使用率向上のための行動変容を いかにうながすか

東北公益文科大学 教授 神田 直弥

問題解決の流れ



チャイルドシート・ジュニアシートを使わない原因

課題



窮屈で動けない



不快感



恥ずかしい



景色が見えない



親が強く言わない

子どもが利用したいと思うようになるためには



知らなかつた
経済的な理由



安全運転なので
大丈夫



短距離だから
大丈夫

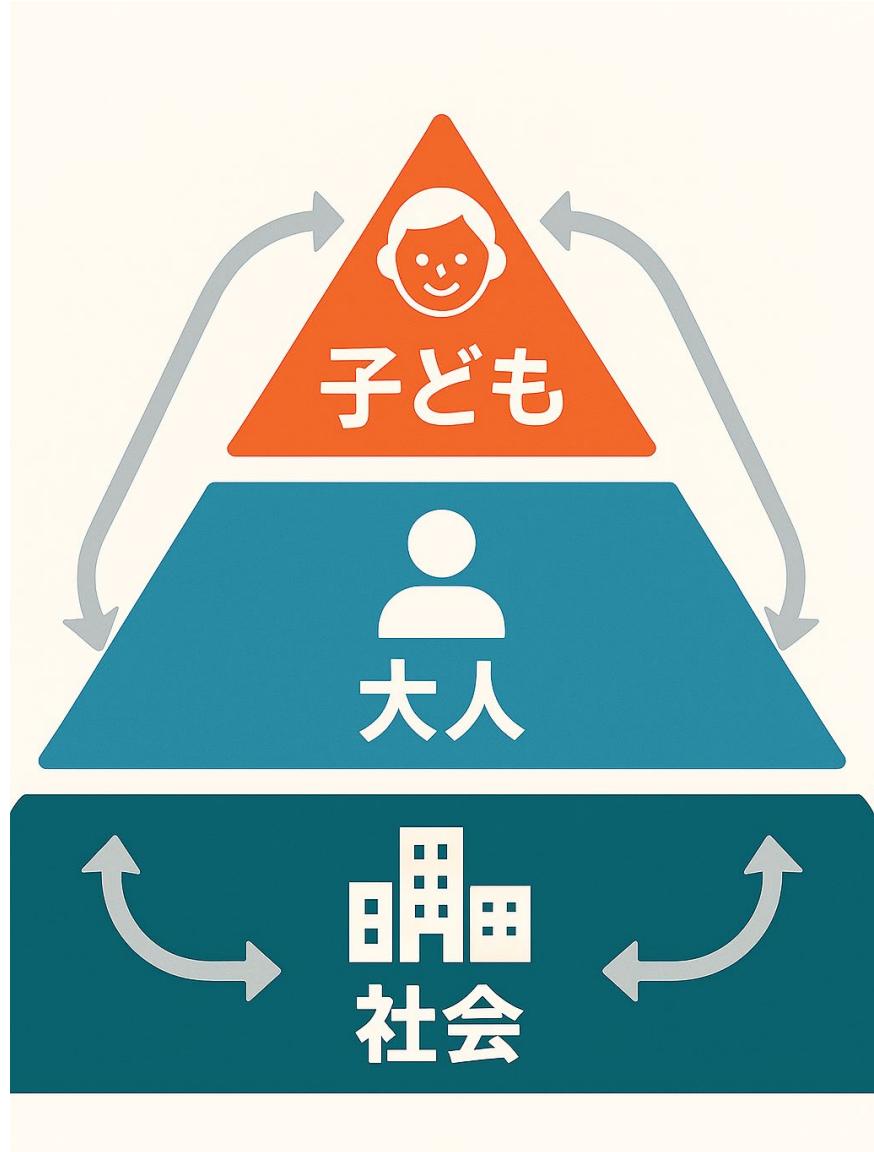
親が子どもに利用させたいと思うようになるためには



断るのが気まずい

断っても関係が悪化しないようにするために

行動変容の3つの視点



子ども自身・親・周囲（社会）の3つのレベルの行動変容

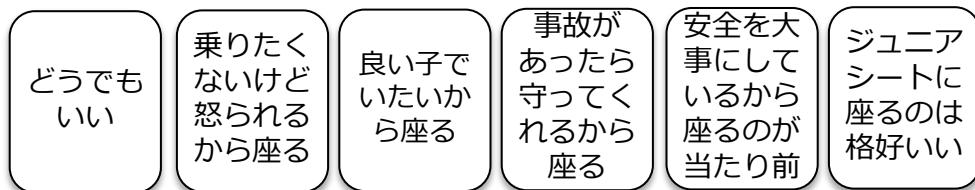
- ① 子どもの内発的動機づけを高める
- ② 親の過信を減らし、チャイルドシート・ジュニアシート利用意図を高める
- ③ 安全行動が社会の常識になる



子どもを対象としたアプローチ

自己決定理論　自己決定が継続的な動機に

無動機	外発的動機づけ				内発的動機づけ
	外的調整	取入れ的調整	同一化的調整	統合的調整	
無行動や無意図	外的な報酬や罰	内的な報酬や罰 承認／恥	規範の意識的な価値づけ	規範と自己の価値の統合	楽しさや興味



自己決定的

動機づけを高める前提となる心理的欲求



発達段階に応じた取り組み

- 格好いい安全座席
- よく見える専用席
- 自分を守るために座る席
- 安全の理由を自ら理解し利用

取組の視点

自律性	<ul style="list-style-type: none"> チャイルドシートを自分で選ぶ ベルトを自分で装着する 自ら考える安全宣言
自分で決める	<ul style="list-style-type: none"> 150cm以下は大人用シートベルトが適合しないことを示し、自ら必要性を理解 交通安全の理解を認定する (安全マスター検定・認定制度)
有能感	<ul style="list-style-type: none"> 学校のクラスレベルでの取り組み 安全リーダーとして低学年に教える (上級生としてのモデル)
関係性	<ul style="list-style-type: none"> 他者との関わりの中で自分の行動を捉えられる

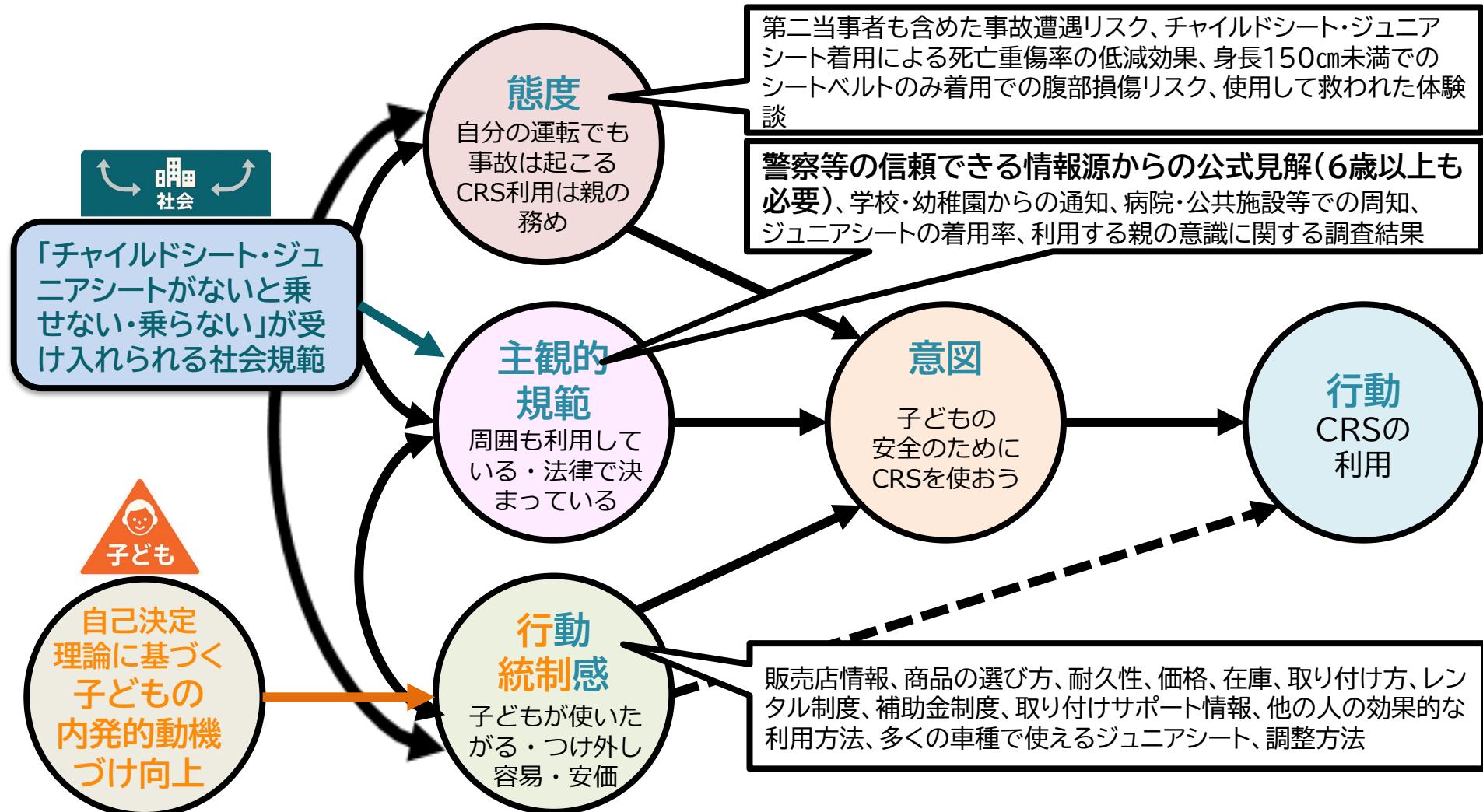
 利用している人が認められ、賞賛される (社会的学習)



親を対象としたアプローチ

計画的行動理論

利用を考えるきっかけを増やす



社会を対象としたアプローチ



お願いされると断りづらい 安全行動が常識とされる文化の形成

看護分野における言えない要因

- ①間違への確信が持てない
- ②人間関係の悪化が心配
- ③立場の違い

断れない

乗せてはいけないと
いう確信が持てない

些細な問題であると
考える

立場上、断りにくい

断った時の人間関係の
悪化が心配

- ・ルールの不理解
- ・ルールが「義務」でなく「推奨」
- ・短時間・短距離などで大丈夫
- ・事故は起こさない
- ・拒否が相手の恥や、相手への非難に
- ・細かすぎる等の自己評価につながる
- ・断ることはよくないという社会的信念
- ・感情的対立

大人

態度

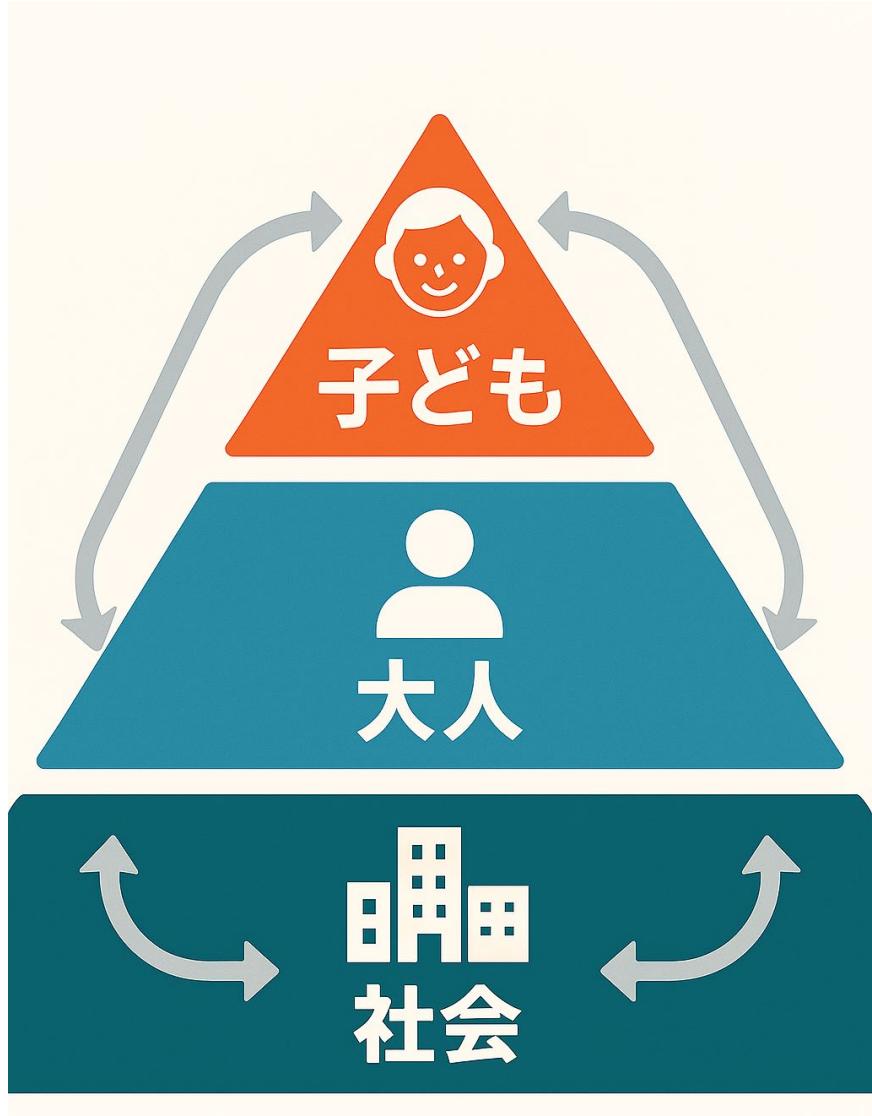
自分の運転でも
事故は起こる
CRS利用は親の
務め

「チャイルドシート・ジュニアシートがないと乗せない・乗らない」が受け入れられる社会規範

各種情報源からの統一的メッセージ「安全のために断るのは思いやり」

医療分野「To Err Is Human」
に基づく相互啓発

まとめ 行動変容の3つの視点



①子供、②大人(親)、③社会
3階層の取り組みの相互連携

- ・自己決定理論（自律性・有能感・関係性）を意識した教育・メッセージ
- ・計画的行動理論（態度・主観的規範・行動統制感）の各観点で必要な情報の統合的な発信
- ・「チャイルドシート・ジュニアシートがないと乗せない・乗らない」が受け入れられる社会規範の形成に資する情報発信

信頼できる情報源からの公式見解
と各種団体の統一的メッセージ